

2022年度 放送番組審議会 議事録
(株式会社ジェイコム九州 熊本局)

日時：2023年3月23日(木) 16:00~17:30

場所：株式会社ジェイコム九州 熊本局 会議室

出席者

委員：宮園 博光委員 (会長)

松下 純一郎委員 (副会長)

田上 聖子委員

塚本 薫委員

岡村 洸斗委員

(以上5名、会長・副会長以下順不同)

| | | |
|-----------------|------------------------|-------|
| 事務局：株式会社ジェイコム九州 | 代表取締役社長 | 上村 忠 |
| | 取締役 | 宮島 哲瑞 |
| | 熊本局長 | 首藤 智博 |
| | 地域プロデューサー | 濱 孝太郎 |
| | 地域コミュニケーション統括部 統括部長 | 上妻 栄太 |
| J:COM 株式会社 | J:COM プロダクション本部映像制作第一部 | |
| | 九州リージョナルマネージャー | 篠原 有 |
| | 熊本制作チーム拠点長 | 橋本 和信 |

1. 開会の挨拶 (株式会社ジェイコム九州 上村 忠 代表取締役社長)
年度末の忙しい時期にご参加いただき、感謝申し上げます。
J:COM ではウィズコロナに向けた新たな活動の準備を進めている。
番組以外にも J:COM 熊本に関する忌憚ないご意見を仰っていただきたい。
2. 議事進行：宮園 博光委員 (会長)
本日は委員5名全員が出席。
放送番組審議会規程第4条に基づき、
2分の1以上の委員の出席が確認されたので、当会は成立。
3. 会長、副会長の選任
委員) 審議会規程第3条3項に基づき会長、副会長を新たに選任したい。
委員) 会長に宮園委員、副会長に松下委員を推薦したい。

委員一同) 異議なし。

委員) 他薦のうえ異議なしということで、会長に宮園、副会長に松下委員を選任する。
また、今年度における自主番組放送基準等の変更はなし。

4. 議題1 J:COM チャンネル熊本 2022 年度自主制作番組について

- (1) 2021 年度の審議を受けた改善点など
- (2) 2022 年制作方針説明
- (3) レギュラー番組 紹介
 - ・LIVE ニュース
 - ・WEEKLY トピックス
 - ・頂アスリート
 - ・その他 (行政番組など)
- (4) 特別番組 紹介
 - ・熊本地震復興祈念特別番組
 - ・熊本市中体連スペシャル 2022 バスケットボール男女決勝
 - ・第 104 回全国高等学校野球大会 熊本大会
 - ・藤崎八幡宮例大祭 2022
 - ・菊陽町長選挙 開票速報
 - ・V リーグ フォレストリーヴズ熊本戦 生中継
 - ・熊本市長選挙 開票速報
 - ・B リーグ 熊本ヴォルターズ戦 生中継 など

5. 意見交換 (レギュラー番組・特別番組について)

委員) コミュニティチャンネルの視聴可能世帯数について。

人口が増えているエリアの J:COM 視聴可能世帯数のカバーが少ないと感じた。

事務局) 熊本のエリア視聴数や、知名度もまだまだ低い投資に対してのリターンを見ながら、延伸を計画している。

委員) 子育てママのコミュニティ作りに発展していくような番組制作をしていただければと感じた。

コロナ禍で子どもを外に出したくない、という意見もあったので、今から新しいコミュニティのあり方が出てくるのではないかと。

現在、オンライン相談会はとても多いので、「相談会がある」という情報の発信などは特に必要な情報ではないかと思う。

事務局) コロナ禍までは当たり前だったものを見直す機会にしなければと考えている。
例えば、イベントや交流会に関してリアルとバーチャルを組み合わせた
メタバースなどを取り入れるなど。
リアルとバーチャルそれぞれで参加する方々の動線作りをやろうと
思っている。
今後、イベント等やる予定だがコロナ禍前までとは違う、仕組みづくりを
考えていきたい。

委員) イベントに関して、リアル参加に消極的な方に向けたアプローチはなかなか
難しい。

委員) くまもと森都心プラザ内にある、XOSS POINT. (クロスポイント) を紹介
してもらったことがあったが、くまもと森都心プラザは図書館に来たついでに
子育て施設に立ち寄り、といった複合型施設を目指している。
いろいろなことが複合的に進んでいるので、そこを取り上げてもらうと
きっかけに繋がるのではないか。

委員) SNS へのアプローチについて、マーケティング視点でご意見はあるか。

委員) 番組内で行った、「Bリーグ九州ダービー プレゼントキャンペーン」に関して
Twitter での反応などは概ね平均値くらい。SNS に関しては、地道な活動を
していくしかない。
ユーチューバーが行っているような「飛び道具」的なもので、フォロワーを
増やしても番組アカウントでは意味はない。

事務局) J:COM は、地上波とは違うビジネスモデルなのでコミュニティチャンネルだけ
でなく、サービス全体を通して、どうやって地域を充実させていただくかを
考えている。
複合的に長いスパンで地域に根差した活動ができるように模索している。
地上波の放送会社とは違う目線で番組を取り上げている。

委員) 継続して取材していただければと思う。

委員) 取材対象について、熊本県の芸術祭が行われるので、取材の候補にならないか。

事務局) 学校関係の取材は、個人情報関連で顔出しができない学生もいるため、許可を
頂ければ、ぜひ取材させて頂きたい。

事務局) 今年「見るテレビから出るテレビ」のチラシを作成し配布を開始した。
チラシがきっかけで、我々が知らない情報も頂いているので地道に続けている。

委員) 地域に根差したことを知らない人もいる。例えば水前寺成就園なども知らない人が多い。アーカイブに残してもらえればと思う。
地元のことを知らない人たちが勉強できる場になるのではないか。

委員) 熊本城だけでも、いろんなストーリーがある。
市民はもちろん、外国人にもわかりやすく伝えられるような番組を作っていただきたい。J:COMのコミュニティチャンネル内で、英語の表記があれば滞在中のホテル内で、旅行の楽しみになるのではないか。

6. 議題2 J:COMチャンネル熊本 自主制作番組 審議

① 番組審議

LIVE ニュース～熊本～（2023年2月1日放送 「河内のり」について）

委員) 取材ネタはどこから？

事務局) メンバーのリサーチで決定している。
放送日は翌日が節分ということもあり恵方巻に必要な海苔を取り上げた。

委員) 放送ネタを取材先からもらって、放送することもあるのか？

事務局) 放送チラシを取材時にお渡ししている。
問い合わせ先も入れているので、今後別の取材も依頼していただけるような関係性を構築している。そういったネットワークを作っている。
放送回ごとに取材のアプローチが違うときもある。
時々の状況で急遽放送内容を変更することもある。
大雪の際は、各区のエリア特派員から自宅周辺の写真など、情報を頂いた。

② 番組審議

特別番組 藤崎八幡宮例大祭生中継（2023年10月23日放送）

委員）録画放送はしなかったのか？

事務局）録画放送はなし。後日ダイジェストとして、LIVE ニュースで放送した。

委員）例大祭を全部生放送、というのは興味がない方には厳しいのではないか。

事務局）例大祭の生放送に関して、認知度はかなり高い。

委員）民放だとスポンサーを募って1時間番組、という作りなので、珍しい。
スポンサーを募って制作するのは難しいのか？

事務局）民放とケーブルテレビの番組では、ビジネスモデルが違う。
関係性を重視して放送している。
地上波ができない番組作りを行っていきたい。

委員）例大祭に関して、歴史などを最初に説明すれば
転勤してきた人など知らない人向けに分かるのではないのか。
なぜ馬が走るのか？など、理由も知りたいと思った。

委員）虐待問題なども含めて、祭りの形も変わってきている。

委員）昔は参加者のマナーが悪い祭りの印象だった。
祭りのマナーが変わっているという文化も今回初めて知った。
そのあたりの啓発を番組化すると地域のみなさんのためにもなるし、
観光資源にもなるのではないか。

事務局）飾り馬奉納団体を取り纏めている団体の話を取材で伺い、
祭りの歴史や意義などを知ることができた。
来年は歴史の部分なども、しっかりと取り上げていきたい。

7. 閉会の挨拶

事務局) 今日のご出席いただき、感謝申し上げます。

例大祭に関して、コロナ禍で祭りを放送すべきかという議論が弊社でもあったが、「祭りは神聖なもの。災いがあるからこそ、しっかり祭りをやりたい」という関係者の話を聞いて放送を決定した。

審議のご意見を伺い、祭りの意義などしっかり番組で伝えていく必要があると改めて感じた。

通信事業者が多い中、J:COMの一番の差別化はコミュニティチャンネル。重要な事業のひとつであるため、これからもしっかり放送していきたい。

以上